ローカル線で行く！フーテン旅行記 19

－海沿いの景勝地を訪ねて！－

岡山大学工学部機械工学コース助教
大西　孝

専門は機械加工（研削）。主に円筒研削や内面研削を対象として、工作物の熱変形や弾性変形に伴う精度の悪化を防止する研究を進めている。趣味は列車を使用した旅行（47 都道府県を踏破済）。

はじめに

今年の夏は異常な暑さです。さらに西日本では 7 月初旬に豪雨があり、岡山、広島、愛媛などで大きな被害が出ました。被災地の早い復興を祈るとともに、寸断された交通網が早期に復旧されることを望みます。この異常気象の中でも、やはり暑くなると海を見たくなるものです。そこで今回は、海に近い景勝地を走る鉄道を 2 か所、ご紹介します。

1. 天橋立で気分爽快！　京都丹後鉄道

西日本を代表する海に近い景勝地といえば、天橋立でしょう。天橋立へは、京都丹後鉄道（通称：たんてつ）は、京都府の福知山から東は舞鶴、西は兵庫県の豊岡を結ぶ鉄道です。JR 線ではないので、青春 18 きっぷは使えませんが、いくつかの乗り放題切符が用意されています。京都駅から天橋立まで JR から乗り入れてくる特急列車もありますが、なんといってもおすすめは、京都丹後鉄道線内の観光列車。たとえば天橋立駅から西舞鶴駅まで運転される「丹後あかまつ号」は、

天橋立駅からリフトで山上に昇り、眺めた天橋立。足の間から逆さになって眺める「股覗き」をすると、まるで松林が天にかかる橋のように見えます。

天橋立駅の一つ隣にある宮津駅では、福知山方面からの列車と、豊岡や西舞鶴方面へ向かう列車が接続します。白い列車は、京都発の特急です。

京都丹後鉄道の誇る観光列車。写真は、かつて運行されていた「タンゴ悠遊号」で、今では「丹後あかまつ号」となり車両も変更されています。

車内にソファやカウンター席が設けられ、日本海がきれいに見えるや由良川の鉄橋では減速して景色を存分に楽しませてくれます。さらに、車内ではお菓子や飲み物なども販売しており、乗車時間も１時間弱ですから、快適なミニトリップといったところです。乗車券とは別に有料の乗車整理券を予約しておく必要がありますが、お手頃価格（2018年７月時点で540円）ですから、乗ってみる価値はあるでしょう。

天橋立から西舞鶴の間を走る列車から眺める日本海。観光列車は、景色の良い場所で徐行してくれるので、ゆっくりと絶景を眺められます。

天橋立駅の周辺には「三人寄れば文殊の知恵」で有名な文殊菩薩を祭る智恩寺があるほか、天橋立の松林が対岸まで続いています。対岸には籠神社（このじんじゃ）や天橋立を一望できる傘松公園があります。船や徒歩でも対岸へ渡ることができますが、天気のいい日はレンタサイクルも便利です。智恩寺周辺の飲食店や土産物店で借りることができ、天橋立の松林を20分ほどで走り抜けて気ままに対岸の観光地を周遊できます。

天橋立駅の近くにある智恩寺。このお寺の本尊は「三人寄れば文殊の知恵」で有名な文殊菩薩で、学業成就を願いに来る人も多いようです。

天橋立から眺める日本海。まさに「白砂青松」で暑さも忘れてしまいます。

天橋立は対岸まで渡ることができます。天橋立駅の周辺で借りることができるレンタサイクルが便利です。

日本三景の一つ天橋立、新幹線の発着する大阪や京都から、そう遠くはありませんので、足を運ばれてはいかがでしょうか。松林から眺めるエメラルドブルーの海は、暑さを忘れて気分爽快になります。

（岡山大学職員組合　組合だより156号より加筆のうえ再掲）

天橋立を渡ると「籠神社（このじんじゃ）」があります。「元伊勢」と呼ばれる、長い歴史を誇る神社だそうです。

2. 震災から蘇った路線で松島へ！　仙石線

続いて東日本に目を向けると、宮城県の松島が思い浮かびます。こちらも天橋立と同じく日本三景の一つ（もう一つは、広島県の宮島です）で、松島へは仙台から石巻を結ぶ仙石（せんせき）線が便利ですが、海に近いところを走るため、東日本大震災の津波により大きな被害を受けました。特に松島への最寄駅である松島海岸駅の一つ石巻寄りの高城町（たかぎちょう）駅から東松島市の陸前小野駅までの10km余りの区間では壊滅的な被害を受けました。この区間の一部では線路を津波の被害を受けにくい内陸側へ移設して復旧することとなり、ようやく2015年5月30日に仙石線では最後まで不通だった高城町駅から陸前小野駅までが開通しました。仙石線の全線復旧に伴い、震災前と同様に仙台から石巻まで普通列車が走っています。さらに松島海岸と高城町の間で仙石線と東北本線を結ぶ線路が完成し、「仙石東北ライン」として東北本線経由で仙台に乗り入れる快速列車が新設され、仙台と石巻を震災前より短い所要時間で結んでいます。この快速列車は松島海岸や本塩釜といった高城町から仙台寄りの仙石線の駅は通りませんので、仙台駅から松島海岸駅へ向かう場合は、地下ホームから発車する仙石線が便利です。ちなみに東北本線に松島という駅がありますが、こちらは松島海岸駅から2km近く離れており、観光地の松島からは離れたところにあります。

東北本線の普通列車から眺める松島の景色。写真の下に写る線路は並走する仙石線のもので、同線の復旧時には，東北本線との連絡線も完成し、仙石東北ラインとして運行されています。

2013年に松島を訪れた際は、震災による津波の影響で、仙石線は一部区間で不通になっていました。写真は松島海岸駅前で列車から乗り換える乗客を待つ鉄道代行バス。

2015年5月末に仙石線は全線で復旧し、併せて、石巻と仙台を結ぶ仙石東北ラインの運行も始まりました。同線には写真のハイブリッド式の最新のディーゼルカーが使われています。

仙石線の電車は、かつて東京の山手線などで走っていた車両で、大都会のビル街から潮風の香りがする東北へ移籍して、のんびりと働いています。もちろん、仙石線の特性（冬の寒さや比較的長距離を走行する）に合わせて、乗客が乗り降りするドアだけを開閉できるようにドアの付近にボタンが設置されたり、トイレが設置されたりと、快適に乗車できるように工夫はされています。また、仙石線の終点である石巻市が漫画家の石ノ森章太郎氏の出身

仙石線を走る「マンガッタンライナー」。
石巻市出身の石ノ森章太郎氏にちなんだ列車です。列車の先頭では仮面ライダーが前方を見張っています。

こちらは、別のマンガッタンライナー。ロボコンが描かれています。ちなみに、この列車の反対側の先頭にはサイボーグ 009 の島村ジョーがいます。

地であることから、同氏のキャラクターを車体一面に描いた電車、「マンガッタンライナー」も２種類用意され、利用客の目を楽しませています。

説明するまでもなく松島は日本三景にも数えられる国の特別景勝で、入り組んだ海岸とそこに浮かぶ多くの島からなる景色が織りなす絶景は他では見られないものです。また、伊達正宗が再興した瑞巌寺や、その五大堂など、歴史的な建造物も多数あり、見どころにこと欠きません。五大堂は松島に浮かぶ島の上にありますが、その島へ渡る橋は、足下の隙間から海面が見えるスリリングなもので、透かし橋と呼ばれています。足下を引き締めてお参りするようにということでこのような構造になったようですが、実際はカップルが渡ると、思わずお互い、手を握り締めてしまうので、縁結びの橋と呼ばれているとか。海岸沿いの道には、名物の笹蒲鉾を目の前で焼く店などもあり、観光客で賑わっています。

瑞巌寺（ずいがんじ）の参道。津波による塩害でかなりの杉が枯れ、伐採されてしまったそうで、かつてのうっそうとした杉並木ではありません。

海に突き出した島にある瑞巌寺の五大堂。手前のすかし橋は足下から海面が見え、スリル満点です。カップルで渡ると距離が近づくこと間違いなし。

この夏は力強く震災から立ち直った路線に復興の希望を託して東北のご旅行はいかがでしょうか。新しくできた仙石東北ラインで、石巻まで足を延ばしてみるのも一興かもしれません。

五大堂から眺めた松島湾に浮かぶ島々。入り組んだ海岸線と多くの島が絶景です。

（岡山大学職員組合　組合だより 190 号より 加筆のうえ掲載）

おわりに

この度の西日本の豪雨災害では、JR 西日本や JR 四国の路線が被害を受けました。旅客だけでなく貨物列車の大動脈である山陽本線も広島県中部では甚大な被害を受け、復旧には数か月を要すると報道されています。さらに、広島と三次（みよし）を結ぶ芸備線では広島市内の鉄橋が流されたため、全線の復旧に１年以上かかると発表されています。松島を走る仙石線のように、列車の音が再び街に響き、地域が元気になることを切に願っています。

なお、今回の掲載の前半にある京都丹後鉄道の旅行記は、記念すべき岡山大学職員組合の「組合だより」における旅行記第１号です。今から６年近く前の記事であり、当時は「北近畿タンゴ鉄道」が運営していました。当時からかなり変わった部分もあり、大幅に加筆修正を加えましたが、ここまで長く旅行記が続くとは、掲載開始当初は思ってもいませんでした。当時を懐かしみながら、加筆作業をしました。これからも、「組合だより」の一服の清涼剤となるように、面白い記事を提供できればと思います。